

研修便り



研修部
平成30年
7月13日
vol.8

指導主事との話から

全校研Ⅰの後に、指導主事の方にいくつか質問をして、本校の研修に関わる部分や、日常の実践に生かしていけそうなことを簡単にまとめました。ぜひ、ご自身の指導にも生かし、全校研Ⅲ、Ⅳにも繋げていただけたらと思います。

1 全校研Ⅰの授業に関わって

- ① 前半の展開がテンポが良かったが、6分かかっている。
- ② はじめは、あまりはどちらが正しいか聞いているが、後半は計算手順になっている。これを結び付けるためには、どの筆算が正しいかの段階で、数字の下に10倍の矢印を書いておく。
- ③ 見通しは、方法、手順、結果の3つがある。
- ④ 練習問題が難しいときは、本時の問題に似ている適応問題で確かめてから取り組ませると良い。

2 振り返りについて

- ・振り返りは3つある。
 - I 学習内容の振り返り（知識・理解）
具体例 分かったことは何かを書く。自分たちでまとめを作る
 - II 学習過程の振り返り（数学的な考え方[知識・理解]）
具体例 どんな考えで、自分の考えがどうなったのか
 - III 自分の成長の振り返り [単元末]
具体例 苦手だったけど、～できるようになった。
- ・振り返りで書く文章量を、実態、ねらいに応じて判断する。
- ・技能の振り返りは、丸付け or 自分ができるようになったコツを書く
- ・単元の中で振り返るところを決める
- ・書くことは大切。長いときは論理的に、短い時は整理する←バランス大切。

3 習熟時間と振り返りのバランスについて

- ・ベースは、30分+15分（習熟&振り返り）で授業を作っていく。
→授業展開で30分→35分になったりすると、10分で調節する。
- ・何にねらいを置くかで、記述をするか決まる。
→2つのバランスは、ねらいに応じて決める。

4 話し方・聞き方について

- ・子どもたちに「質問する力」を付けさせることがスキルアップに繋がる。
→始めは教師が例を見せる⇒子どもたちでできる力を身に付けさせる。

5 評価規準が技能の研究授業

- ・問題を解いていき、全体交流では、どんなミスをしたか？から、どうすればミスをしないかを考えて、もう一度問題を解いていく。流れの授業。

6 思考が深まる集団解決

- ・子どもたちの話し合いが、質問となっている(私はこう考えたけど、あなたはどうか?)
→最終的に深まる
- ・子どもたちの話し合いで何を話し合わせるのか明確にする(複式に多い)
- ・ゴールを示して、話し合わせる(ペア・グループ、全体)

7 ルーズリックについて

- ・○、◎の場合、○が到達目標なのに、◎じゃないと、落ち込む児童が居る。
- ・○(B評価) 挑戦してみよう!(A評価) にしてみる。
→子どものショック減少。

8 習熟度別少人数指導について

- ・目標と評価は、習熟度であっても変わらない。しかし、過程は差があって良い。
- ・上位：他の人の考え方を使って考えていく
- ・下位：厳しい! だけど、考えさせる時間も必要。
→①教科書をみながら考えていき、適応問題パターン
- ・ノートの何ページを開くと解くことができるよ! など、既習事項との繋がりを徹底的に振り返らせる。

全校研Ⅰ,Ⅱの反省を受けて、
7月27日(金)13:30~
「1学期交流授業のまとめと、
2学期研(全校研Ⅲ,Ⅳ)にむけて」
の研修を行います。

